

# 放射線科 専門研修プログラム

現代医学を支える熱意ある放射線科医を育てます！

放射線医学は主として画像診断と放射線治療の2本柱で成り立っています。両分野とも近年めざましい進歩があり、日増しにその重要性を増しています。新たな治療方法、画像診断技術、診療機器の開発、そして良質な診療手段を選択することが、極めて大きな社会貢献となります。放射線医学は新しい医学研究領域であり、病院での業務も従来の伝統や常識にとられない開かれた診療科です。一緒に画像診断・放射線治療の道を歩んでみませんか。

受入れ人数 : 10名  
選考方法 : 書類選考、面接



## ■ プログラムの“ここがポイント”

【診断部】:CT・MRIは国内有数の検査数を誇ります。悪性腫瘍から特殊な疾患まで様々な疾患を経験をすることができます。指導医がレポートの添削を通じて、所見から診断まで丁寧に指導を致します。IVRも積極的に参加していただきます。平日・休日問わず勉強会が数多く開かれており、参加可能です。時には発表を通じて勉強をしていきます。  
【治療部】治療計画については、自分が作成した計画をカンファレンスで専門医が必ずフィードバックをし、丁寧に指導をしています。外照射のみでなく、小線源治療も積極的に行っています。病床も有しており、入院管理も研修できます。

診断部・治療部合わせて30名程度の小さな医局です。その分風通しがよく、指導医ともコミュニケーションがとりやすい環境です。

## ■ プログラムの内容

当科では放射線診断専門医もしくは放射線治療専門医を取得するまでの5年間を専門研修と位置づけています。卒後3年目を迎える先生方は、まず「放射線科専攻医(＝従来の後期研修医)」として放射線科全般に関する専門研修をスタートします。画像診断、核医学、IVR、放射線治療に関して3年間幅広く専門研修を行い、第1段階である「放射線科専門医」受験資格を取得します。

「放射線科専門医」取得後は、画像診断あるいは放射線治療のどちらかを選び、2年間の専門研修を行い、「放射線診断専門医」もしくは「放射線治療専門医」を取得します。画像診断については、全般的な広範囲の知識と実施技術を修得していただき、generalistを目指します。

放射線治療学・臨床腫瘍学については、診断・治療の両面について、十分な知識と経験を有する臨床放射線科医を育てることを目的としています。外科療法、化学療法等との併用療法、集学的治療に主眼を置き、これらの治療の基礎的事項も併せて研修しています。

## ■ プログラム責任者

宇野 隆

## ■ 研修プログラムに関するお問合せ先

TEL:043-226-2100(教室直通)

E-mail: [chibarad.photo@gmail.com](mailto:chibarad.photo@gmail.com)

千葉大学病院 総合医療教育研修センターHP  
<https://www.ho.chiba-u.ac.jp/chibauniv-resident/>

千葉大学病院 見学のお申込み  
<https://www.ho.chiba-u.ac.jp/chibauniv-resident/visit/index.html>

千葉大学病院 放射線科ホームページ  
<https://www.m.chiba-u.jp/dept/radiology/>

お気軽にお問合せください！

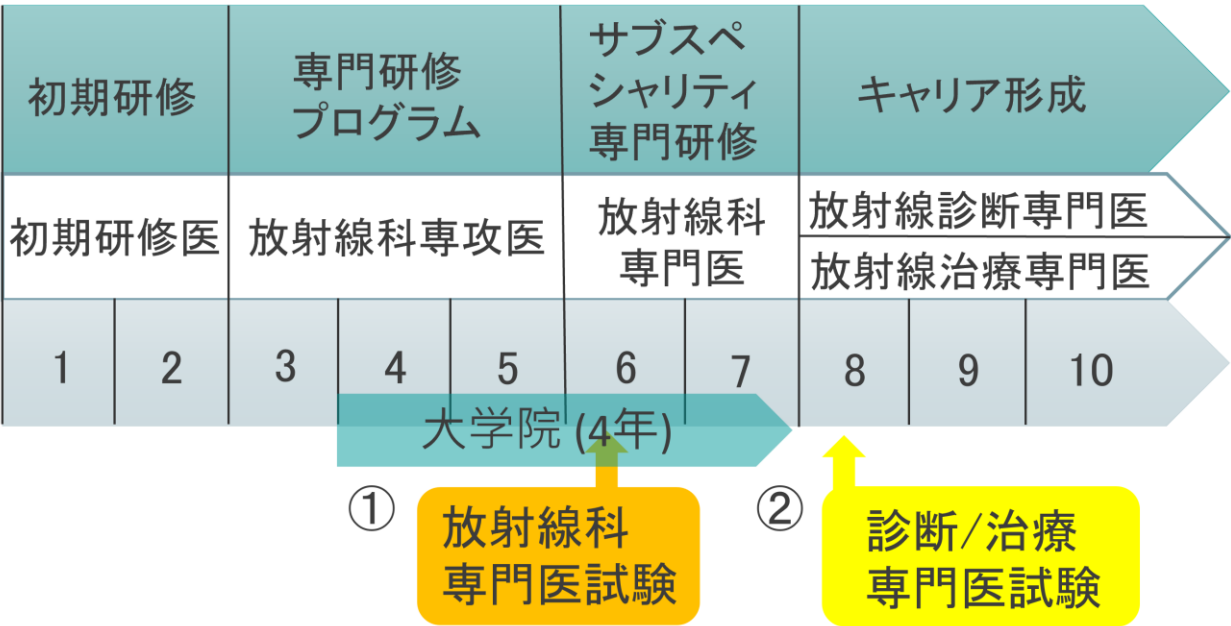
コースの特徴、詳細

千葉大学では、下記のようなコースを用意しています。千葉県を中心に様々な地域に連携施設があり、地域の中核病院やがんセンター、小児専門病院などで研修を行うことができ、common diseaseから専門的な疾患まで経験することができます。学会にも積極的に参加していますので、研鑽を積む機会も多くあります。

| 放射線科専攻医 |      |      |      |
|---------|------|------|------|
|         | 3    | 4    | 5    |
| コース a1. | 大学病院 | 大学病院 | 連携施設 |
| コース a2. | 大学病院 | 連携施設 | 大学病院 |
| コース b.  | 大学病院 | 連携施設 | 連携施設 |
| コース c.  | 大学病院 | 連携施設 | 大学病院 |



みなさん、私たちと一緒に画像診断・放射線治療の未来を支えましょう！！



診断・治療専門医取得後は、興味がある分野についてサブスペシャリティをもち、さらに専門性を高めることができます。各科のカンファレンスなどに参加し、診療科の先生とともに患者さんの治療方針決定に携わっていきます。

千葉大学大学院医学研究院は、医員として大学病院で働きながら、あるいは連携病院に勤務したまま大学院生となる事が可能です。専門研修中に学位を取得する先生も多くいます。出産、育児などのライフイベントには、医局員がお互い協力して臨んでいます。現在でも育児中の医局員がたくさん活躍しています。千葉大学病院では院内の保育園・学童保育が利用可能です。